

Oil Market Review 16第01号

2016年(平成28年)

4月1日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■概況

3/17~3/23のNYMEX・WTIは、4ヵ国による原油市況対策の会合への期待と在庫の増加などから40ドルを挟む動きとなり、39~41ドルで推移した。

3月24日は、前日のEIAによる記録的在庫水準から来る供給過剰感が改めて認識され、値下がりした。5月限の終値は、前日比0.33ドル安の39.46ドルとなった。

連休明け28日は、4月に開催される産油国会合への楽観論がやや後退したことから続落した。5月限の終値は、前日比0.07ドル安の39.39ドルで終了した。

29日は、今週も原油在庫の増加が予想されていること、4月17日の産油国会合でイランとリビアが増産方針を堅持すると述べたことなどから、軟調に推移した。5月限の終値は、前日比1.11ドル安の38.28ドルで終了した。

30日は、EIA(米エネルギー情報局)の石油統計で、原油在庫の増加が予想をやや下回ったことから小幅に値上がりした。5月限の終値は、前日比0.04ドル高の38.32ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週も続伸し36~37ドルで推移した。24日は36.00ドル、25日は35.50ドル、週明け28日は36.50ドル、29日は35.60ドル、30日は35.30ドル。

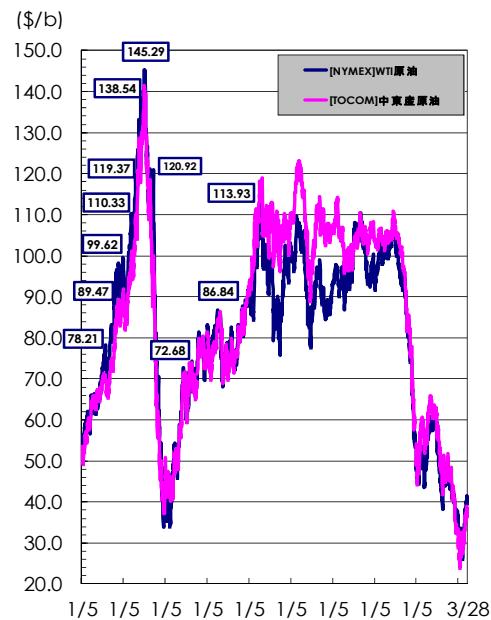
為替は、前週は円高が進み111~112円台で推移した。24日は112.42円、25日は113.31円と円安が進んだ。週明け28日は113.44円、29日は113.26円。30日は112.66円。

財務省が30日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、3月上旬の原油輸入平均CIF価格は、22,008円/klとなり、前旬を430円上回った。ドル建てでは30.94ドルで前旬比1.02ドル高。為替レートは1ドル/113.10円。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/20 ~ 3/26	3,887	▲ 4	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.2	▲ 0.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/26	14,274	▼ -178	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/28	37.97	▼ -1.04	▼ -16.7
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	3/28	39.39	▼ -0.52	▼ -9.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月上旬	30.94	▲ 1.02	▼ -23.84
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	22,008	▲ 430	▼ -19,280
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.10	▲ 1.56	▲ 6.73
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/28	114.44	▼ -1.51	▲ 5.82

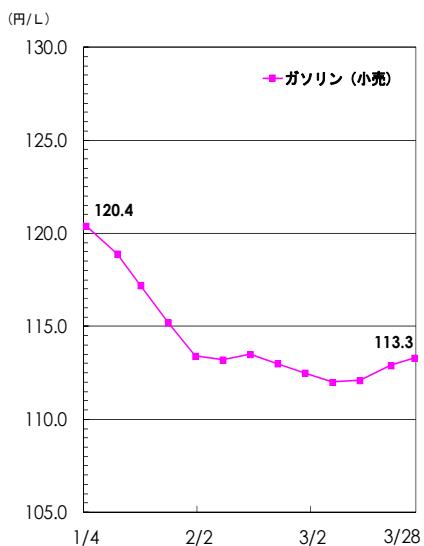
主要元売会社の4月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、横ばいから5.0円の値上がりだった。原油は値上がり、為替は小幅な円高だったが、原油コストは小幅な値上がりだった。

そのような中で、3月28日時点の小売価格は、ガソリンが0.4円値上がりの113.3円、軽油は0.2円値上がりの97.5円、灯油は横ばいの61.0円となった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油は2週連続の値上がり、灯油は2週連続の横ばい。この週の原油コスト、元売りの卸価格は横ばいだったが、前月までの値上がりの影響で、38都府県で値上がりした。



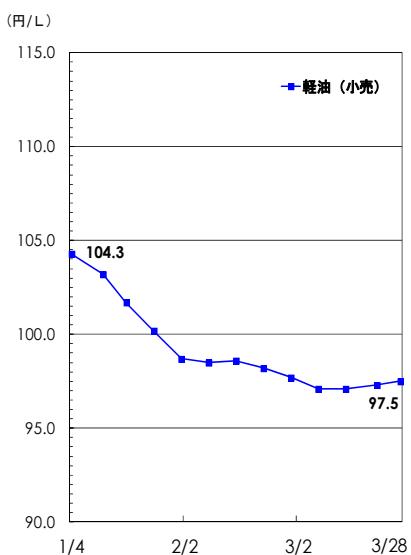
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給		3/20 ~ 3/26	1,058	▲ 18	▲ -
生産		"	n.a.	n.a.	n.a.
輸入		"	901	▼ -132	▼ -
出荷		"	182	▲ 122	▲ -
在庫		3/26	1,688	▼ -25	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	3/22 ~ 3/28	35.6	▲ 0.4	▼ -20.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	3/22 ~ 3/28	40.5	▲ 3.5	▼ -16.7
	(TOCOM/中部)	3/28	39.5	▲ 2.5	▼ -17.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/28	113.3	▲ 0.4	▼ -26.6

※業転、先物価格は税抜き価格

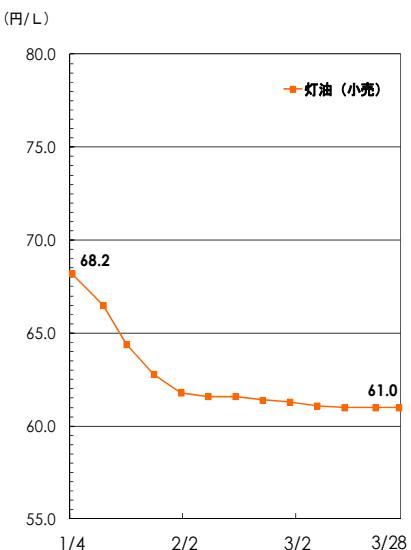


軽油		今週		前週比	前年比
需給		3/20 ~ 3/26	873	▲ 83	▲ -
生産		"	n.a.	n.a.	n.a.
輸入		"	650	▲ 11	▼ -
出荷		"	179	▲ 11	▼ -
在庫		3/26	1,478	▲ 44	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	3/22 ~ 3/28	33.7	▲ 0.2	▼ -18.9
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	3/22 ~ 3/28	36.2	▼ -0.2	▼ -16.9
	(TOCOM/中部)	3/28	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/28	97.5	▲ 0.2	▼ -22.0

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週		前週比	前年比
需給		3/20 ~ 3/26	361	▲ 17	▲ -
生産		"	n.a.	n.a.	n.a.
輸入		"	402	▲ 3	▲ -
出荷		"	0	► 0	► -
在庫		3/26	1,127	▼ -41	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	3/22 ~ 3/28	34.3	▲ 0.3	▼ -19.7
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	3/22 ~ 3/28	35.5	▲ 1.2	▼ -17.9
	(TOCOM/中部)	3/28	36.0	▲ 1.0	▼ -17.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/28	61.0	► 0.0	▼ -23.4



■ 関連情報

1 海外/原油

30日のNYMEX市場のWTI原油は、EIAの週間石油統計で、原油在庫が市場の予想をやや下回ったことから小幅に値上がりした。

EIAが発表した週間石油統計は、原油在庫が事前予想(330万バレル増)をやや下回る230万バレル増、一方、ガソリンと暖房油在庫は減少となったことから、一時39.85ドルまで値上がりした。また、ドル安の進行も値上がりを支えた。しかし、在庫は予想を下回ったとはいえ増加に変わりはなく、上げ幅は抑制された。

5月限の終値は、前日比0.04ドル高の1バレル38.32ドル、6月限の終値は、前日比0.15ドル高の1バレル39.66ドルだった。

EIAによると、3月28日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比5.9セント値上がりの1ガロン2.066ドル(62.4円/㍑)となった。ディーゼルは0.2セント値上がりの2.121ドル(64.0円/㍑)。ガソリン、ディーゼル共に6週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、3月20日～26日に休止したトッパー能力は、21.3万バレル/日と先週から3.9万バレル/日の減少。(全処理能力は391.7万バレル/日)。

原油処理量は388.7万㎘、前週に比べ0.4万㎘増。前年に対しては、19.5万㎘の増加。トッパー稼働率は89.2と前週に対しては0.1ポイントの増加、前年に対しては5.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェットのみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.7%増、ジェット/22.9%減、灯油/5.0%増、軽油/10.5%増、A重油/8.7%増、C重油/1.3%増。今週のC重油の輸入は6.5万㎘(前週比2.6万㎘増)。軽油の輸出は17.9万㎘(前週比1.1万㎘増)。

出荷(販売量)は、前週比では灯油、軽油、C重油で増加し、その他の油種で減少した。前年比では灯油のみが増加し、その他すべての油種で減少した。前月に発生した流通、販売業者を中心とした引き取り増による仮需の反動もあり、ガソリンで90.1万㎘(前週12.8%減)と2週振りの100万㎘割れ、一方、2週振りの前年割れとなった。

ジェット6.0万㎘(前週54.5%減)、灯油40.2万㎘(前週0.8%増)、軽油65.0万㎘(前週1.7%増)、

A重油25.0万㎘(前週12.3%減)、C重油35.9万㎘(前週22.5%増)。

(単位:千㎘)

	今週 (3/20～3/26)	前週 (3/13～3/19)	前週比
ガソリン	901	1,033	▼ -132 (-13%)
ジェット燃料	60	132	▼ -72 (-55%)
灯油	402	399	▲ 3 (1%)
軽油	650	639	▲ 11 (2%)
A重油	250	285	▼ -35 (-12%)
C重油	359	293	▲ 66 (23%)
合計	2,622	2,781	▼ -159 (-6%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月26日時点の在庫はジェット、軽油、A重油で積み増しとなり、前年に対してはC重油のみが積み増し、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは168.8万㎘、前週差2.5万㎘減。前年に対しては0.9万㎘少ない。

灯油は112.7万㎘、前週差4.1万㎘減。前年に対しては15.4万㎘少ない。

軽油は147.8万㎘、前週差4.4万㎘増。前年に対しては5.8万㎘少ない。

A重油は76.0万㎘、前週差4.8万㎘増。前年に対しては1.0万㎘少ない。

C重油は200.9万㎘、前週差7.0万㎘減。前年に対しては8.0万㎘多い。

(単位:千㎘)

	今週 (3/26)	前週 (3/19)	前週比
ガソリン	1,688	1,713	▼ -25 (-1%)
ジェット燃料	929	882	▲ 47 (5%)
灯油	1,127	1,168	▼ -41 (-4%)
軽油	1,478	1,434	▲ 44 (3%)
A重油	760	712	▲ 48 (7%)
C重油	2,009	2,079	▼ -70 (-3%)
合計	7,991	7,988	▲ 3 (0.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月22日から3月28日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは小幅に円高で、コスト自体は小幅な値上がりと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン89円台、軽油33円台、灯油33~35円台だった。海上スポット価格は、ガソリン89~93円台、軽油36~37円台、灯油35円台である。また、先物価格はガソリン93~94円台、軽油35~36円台、灯油34~36円台だった。原油コスト上昇による卸価格値上がりの影響が製品スポット市場にも波及し、製品市況も全般的に堅調だった。

EMGマーケティングは31日、2日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種4.0円値上げする旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの値上がりに呼応して、小幅な値上がりだった。週間のガソリン販売量は、再び100万klを下回った。

4月第1週(3月31日~4月6日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月22日~3月28日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.4円、軽油は0.2円、灯油は0.3円の値上がり、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.7円、軽油は0.4円、灯油は0.9円の値上がりだった。また先物価格は、ガソリンが3.5円、灯油が1.2円の値上がり、軽油が0.2円の値下がりだった。原油コストは小幅な値上がり、スポット製品価格も全般的に堅調に推移した。

4月第1週の大手元売の卸価格は、横ばいから5.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

		(単位:円/㎘)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (3/22 ~ 3/28)	前週 (3/15 ~ 3/18)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	35.6	35.2	▲ 0.4
	灯油	34.3	34.0	▲ 0.3
	軽油	33.7	33.5	▲ 0.2

		(単位:円/㎘)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (3/22 ~ 3/28)	前週 (3/15 ~ 3/18)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	40.5	37.0	▲ 3.5
	灯油	35.5	34.3	▲ 1.2
	軽油	36.2	36.4	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/22~3/28実績値) (単位:円/㎘)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.4	▲ 3.5	▲ 2.0
灯油	▲ 0.3	▲ 1.2	▲ 0.7
軽油	▲ 0.2	▼ -0.2	➡ 0.0
A重油	▲ 0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月28日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円値上がりの113.3円、軽油は0.2円値上がりの97.5円、灯油は横ばいの61.0円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油は2週連続の値上がり、灯油は2週連続の横ばい。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは39都府県、横ばいは3県、値下がりは5道府県だった。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、高知県(前週比横ばい)の105.0円で、香川県(同0.1円安)が108.6円で続いている。最高値は鹿児島県(同0.3円高)の122.7円だった。都道府県別で最も値上がりしたのは鳥取県(同1.5円高)で111.5

円、最も値下がりしたのは北海道(同0.2円安)で112.9円だった。

原油コストは値上がり、卸価格も一部を除き据え置きだった。製品スポット市況もやや堅調、次週の小売価格は、前週までの卸価格引き上げの影響も残り、値上がりが予想される。

(単位:円/㍑)					
(資源公表) [週動向]	今週 (3/28)	前週 (3/22)	前週比	直近高値	
小 売 価 格	レギュラー	113.3	112.9	▲ 0.4	08/8/4 185.1
	灯油	61.0	61.0	➡ 0.0	08/8/11 132.1
	軽油	97.5	97.3	▲ 0.2	08/8/4 167.4

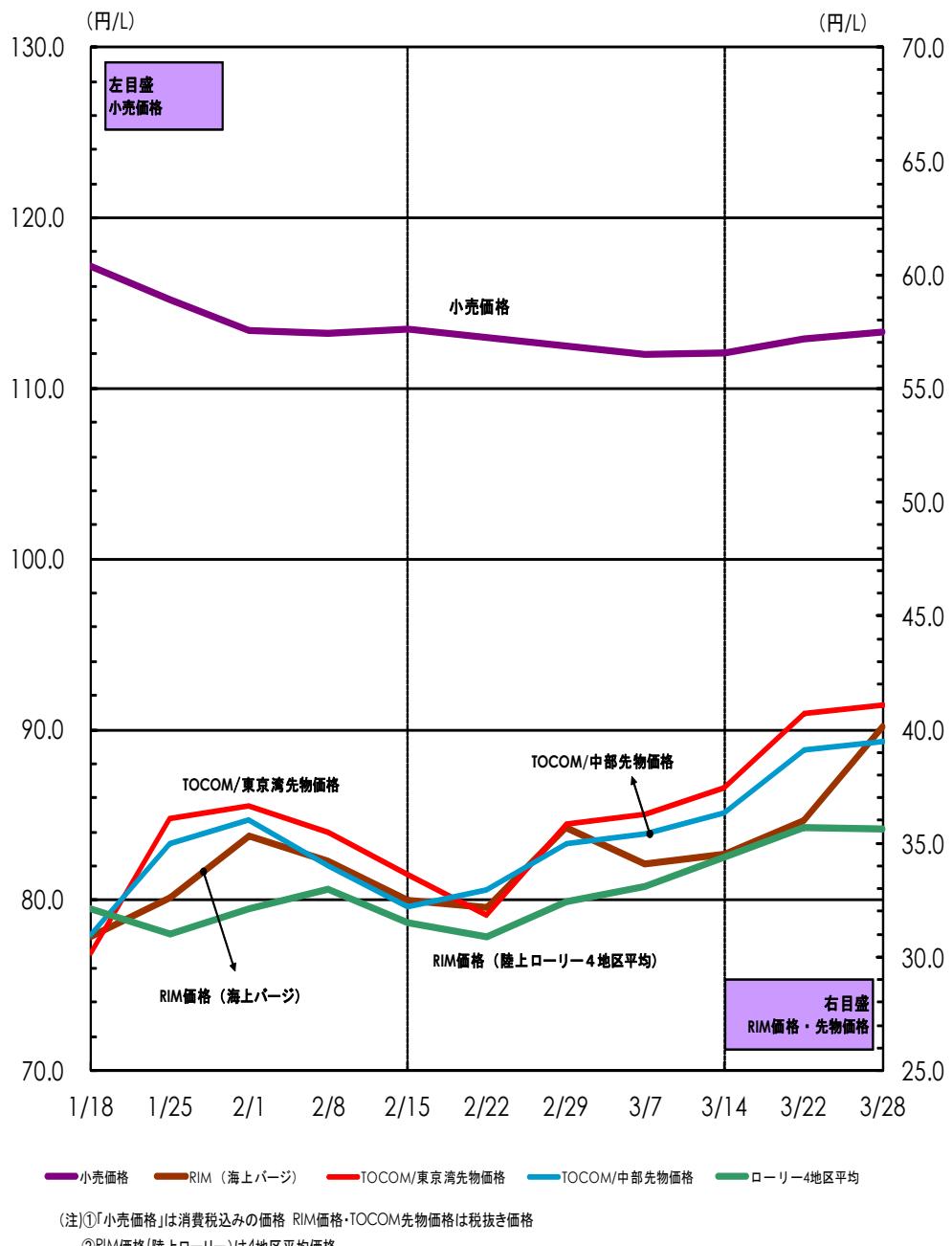
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/1/18 ~ 2016/3/28)



■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2016第2号）の公表は、4/8（金）14:00です。

「セルフSS出店状況」（平成27年9月末現在）は、12月16日（水）14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年4月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LARRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁-HPIに掲載）。